

釣子案内

〇一丈一寸

ふな  
上  
七寸  
ハカ  
尺

は  
三寸  
五寸

夕  
夕

特別  
イ 4  
3159  
B 49





14  
3159  
B49

白井右近將監忠勝





東都釣師魚獵大全



○諸釣時候之事 附長繩時節之事 便勢庵待阿弥選

一春の彼岸より鮒喰出すなり但一ひりも  
かさらう下水ののり河か冬はあつむなり春  
より水あつこなりてうぶなり其節  
を考へ鮒釣に出づべし鮒たすは喰けむ  
るし

一八十八夜よりまきす喰始ると但一  
ハ夜よりまきす喰の始りなき







石舟の志づいたるおと年月まで  
海草もく夫のます「ないなめ」大がは  
こちから思ひを魚ぬくそおたに  
お種この魚付はる水をつるは  
月の中よりなり「九月迄の君よ  
しとらこども春のりなと日歸り  
りなほがし「九月迄の君よ  
のそりりごさ

「かいぞう」釣「のり」の母「おら」と  
同じく「おら」す

「せい」釣「中川」は七月まで「おら」

すなり「永代」の川「七月中より」  
初「し」月迄とし「永代」下も「田川」迄は  
水あり付る「え」舟のかりり「おら」  
「中川」は竿釣「永代」の「おら」なり

「さい」文化三年の夏「江戸」まで「おら」  
出すもなすおてみく「秋」沖「おら」  
多く「おら」し「おら」し「おら」し「おら」し  
能「おら」し「おら」し「おら」し「おら」し  
の内を「おら」し「おら」し「おら」し

「せい」釣「沖」釣「おら」し「おら」し「おら」し  
風「おら」し「おら」し「おら」し「おら」し



はせ手釣

なりを常事。釣を深きとつふこ  
ち。前深川。道の人。は沖つり。よ。よ。よ。年  
を。釣。し。

一 か 水 の 七 月 中 の 以 前  
十 月 迄 と 永 代 橋 の 南 側 へ ん 後  
一 場 迄 お と ま 手 的 の 吟 し

一 あ ど 文 化 十 年 六 月 の 七 月 中 と  
あ ら に 北 年 水 く た て あ ら ら  
み や ら り 猪 籠 の え の 思 ひ り 海  
川 仙 甚 に 舟 迄 お は さ 端 前 と  
ま お あ ど こ の お 吟 お し 中 け り

まで友をき。た。手。釣。し。一。泊。は。八。十。九。  
十。より。百。五。十。位。能。日。の。三。束。も。三。束。  
釣。り。出。し。

一 あ ら に 釣 の 八 月 の 夜 の 夜 り  
月 の 夜 の 吟 お し あ ら し  
一 い つ り の 五 月 四 月 の 夜 の 夜 り  
を つ お ら り 八 月 の 夜 の 夜 り  
一 四 月 の 中 の 夜 の 夜 り お し あ ら し

一 手 長 を び つ り 五 月 の 夜 の 夜 り  
長 繩 春 繩 の 三 月 の 夜 の 夜 り











大泊  
 朝日 二日 三日 四日 五日 六日 七日

十六日 六ツ時  
 十七日 六ツ時  
 十八日 六ツ時  
 十九日 五ツ時  
 廿日 五ツ時  
 廿一日 四ツ時  
 廿二日 四ツ時

ミチ  
 九ツ時  
 九ツ時  
 九ツ時  
 八ツ時  
 八ツ時  
 七ツ時  
 七ツ時

○改正江戸泊時

沖の汐より泊川をぬき  
 遠の川に二分五分をき











知るべし帆形よく心付沖の帆六令  
五令の持する所の時、臨より風来こと  
知るべし急も舟へまゝし  
一物さつととこころも一方も舟へま  
ま方より風吹出さし  
一雨のちる日は強く風吹くことせ  
約は出さし  
一すささいなり金の邊中川古例  
迎ぐし地へ近し船つ下夕のせなは  
枕せき造りよきし船へ合おし  
一船政りるし船へ承り必意地を

張りやまよく風吹きまよぶ帆  
こころのり合つたいままよく  
志のやまよく  
船政よよく合し船を舟さし  
しるし揚るのりや  
キに帆引てもよき時、風よきあり  
まよる  
一風よき時、又よきし向  
風なく帆形よくしるし、船を



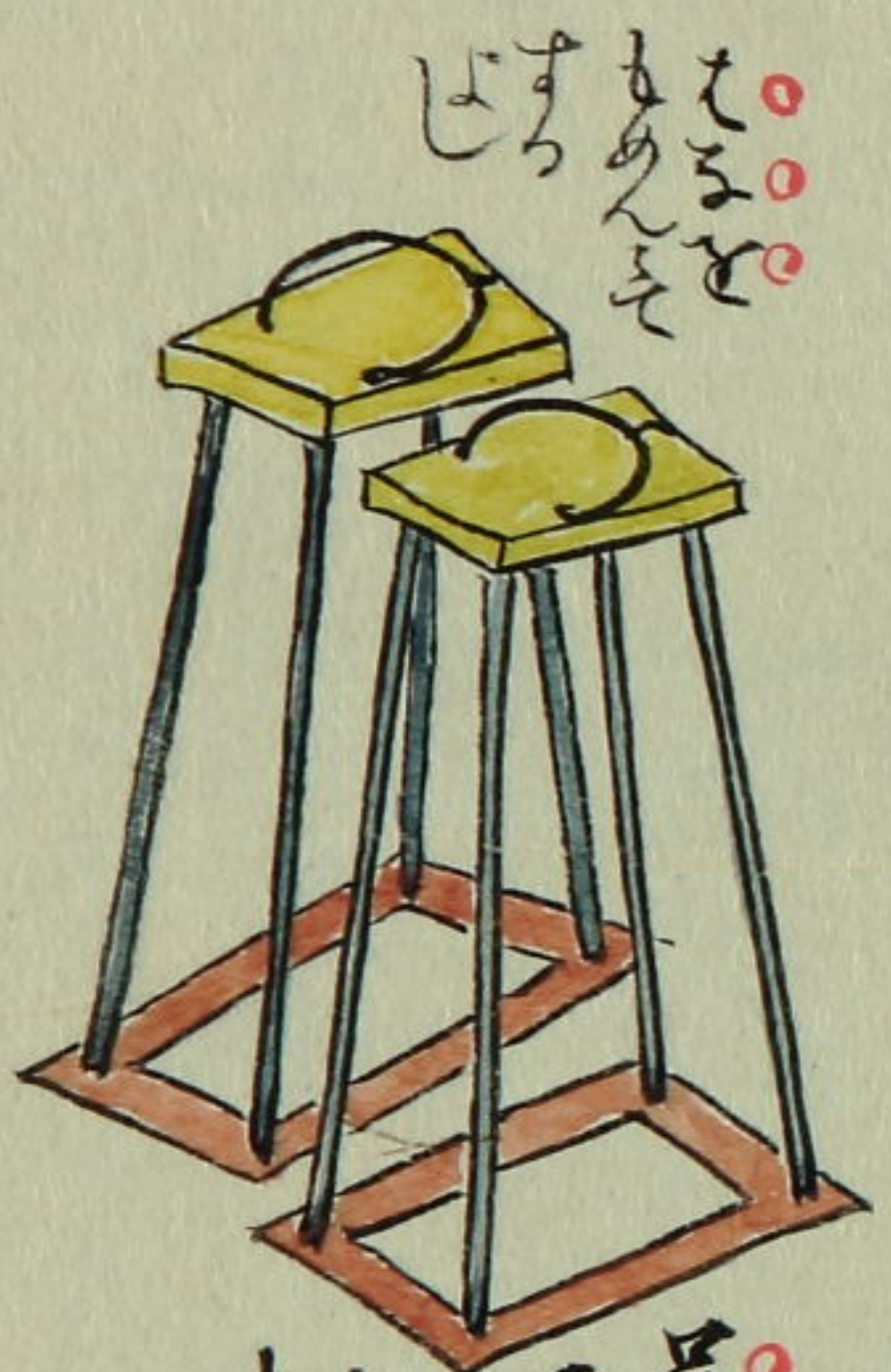
の尻しゝゝ其の部をいふは  
つじ

○釣道具之事

一 根釣おもり二十斤より六七十斤位  
 こんびる長サきし後一尺二寸  
 一 片こんびるき尺二寸位より  
 釣糸二十ひろやてがす陸台  
 丈夫なものを長サ三尺位に付  
 一 手強おもり十斤位より十七八  
 斤

一 每位まて釣糸七ひろ半位  
 一 中す釣おもりは五ひろ位に竿  
 二 百半位迄は五ひろ半をまら  
 二 百位より

中す竿のさし具



是より三尺五寸位が  
 二尺位と  
 是れをすの  
 木とすも

たまそ  
 もあんそ  
 ばす















○ 釣場之事

- 一 ます 釣 東 中 川 迄 迄 西 の ま ま の ま
- 一 大 森 下 大 陣 に 原 塩 濱 下 東 か 海 の 川
- 一 ま 世 前 釣 佃 島 迄 大 川 三 つ あ の 津
- 一 濱 の 大 門 ま へ 小 船 う り 輪 の 内 の
- 一 ま ま 持 上 徳 の ま 新 地 を な ら ぬ の
- 一 地 の
- 一 ら せ の 下 の 森 大 川 の 代 迄 迄 中
- 一 川 津 書 の を な ら り 南
- 一 ま ま な ら る の ま ま の 古 所 川 子 住
- 一 新 地 津 田 迄 別 の ま



一 ついで 松平 安藤 守 の 築 地 清 江 を 前  
角 より 佃 島 を 取 代 海 川 清 江 丁  
 一 迎 と し ら し  
 一 三 づ り 海 川 新 寺 の 向 後 川 を 結 盤  
所 が 陸 物 所 後 河 迎 と し た は 持 り  
み が け た ら れ 迎 と し  
 一 ま ま ま の 砂 場 を 付 と し  
 一 う ま ま の 石 向 を 付 と し  
 一 う ま ま の ぬ ら 場 を 付 と し  
 一 こ ち る ま ち り の 場 を 付



○舟代之事

一神田川防炮則築地本概所増  
前。海。外。古。石。深。川。江。戶。宣。出。船  
前。防。急。事。也。

五人系

四百四十八文

二人系

五百文

三人系

五百四十八文

四人系

六百文

沖防急事也

五人系

六百六十八文

六人系

六百三十八文



三人系 七百文  
但二丁乃をぶわきり銭

三百文

根物

大船何系

二丁船 兵丁二百文

金

日 金 兵丁

繩 正 繩

兵丁 七百文

魚 繩

金 兵丁 七百文

沖 網

兵丁 二百文



○岩魚釣り

時期 六月から九月位まで、十月は産卵期

竿 強調のもの、一丈から一丈五尺まで

又五六尺の延竿でもいりもある

道線 馬尾二三尋

釣糸 テグスへ4マのみりもさし一層子毛柄を三四尺

鉤 餌釣りの鉤は餌の種類よりうす長目のもの・丸形のものとも変るが可ぬ的小



飛のよききぶぶくきみ込むく  
 三回位  
 鉤挿すの用意ある  
 丸形の細手  
 時刻夜明けの日の出たの一二時  
 夕方は四時ころたきいれ  
 鐘。細き  
 解 キジ・サシ  
 ヒラコオといふ魚  
 オニコオ・ゴウム  
 冬はラウボウ虫 柳 蜂の子  
 蜂の子

八市釣の蚊けり釣 二尺前後のへくまの

極上細のみづもテグスの間たさき一本  
 一尺おろ一本、又一本といふ風な蚊けりをつ  
 けて、それより上の方三尺ほどを、僅に太  
 いへくまテグスといふ、あは例の馬のてんや  
 き糸よりす。竿が二間半位までは糸の  
 全長は竿より二尺はより短くする。  
 その糸は糸の操法を容易かきうめである  
 である  
 釣の大きいのを選ぶのは魚の口の大きく具食  
 へ食す魚であるからである、備し釣先



かからぬやうに餌をさす  
餌をさすとも暗闇に餌をさす  
だる敷摺り合せす又あるあり、且つ  
釣り掛すともさるとまをい、魚である  
や、ほき、海をさす。  
川下から川上へ釣りあがるのはよい

○沙魚

流系一番細道系。二重柄テグス付。鉤素四寸五分。  
鐘二枚。鉤一寸半

○白鱈

沙魚竿にてよし  
合せるとをいれぬ、鉤素六寸  
鐘四五枚乃至六七枚、又潮流より八九枚乃至廿五枚



○釣素

○鯨 二重、五寸

○白鯨 二重、六寸

○沙魚 一重、一重半、四寸

○鯨 一重、一重二毛、五寸

○ワヤ・ヤマベ 八毛、一重、六寸

○たなぎご 極細一寸、二寸



○毎月釣りの

十月。 ぼら ふな こひ うなぎ

あゆ あなご せいご けせ ひがい

いか いいたこ たい 大刀魚 だは

十一月。 けせ ふな けや ふつこ いな

あかさぎ ぼら せいご あいなあ あなご

十二月。 ふな たなご あかさぎ けや

まがさぎ かひい けせ ぼら あいなあ

一月。 かひい ふな たなご 寒鯛

あかさぎ けや まがさぎ けせ

二月。 ふな あいなあ あかさぎ たなご

けや かひい けせ



三月。めづる ふな くらひ たるこ

四月。はや ざざー

はや ふな はや やま やま

たるこ もろこ はす

五月。喜ぶ す 白 す 手長 燧

す あ あ こ ひ な ま ら

はや や ま め や ま だ

六月。あゆ あ ち 手長 燧 はや

くら き す き す や ま ら

七月。かい づ たい な ま ら い あ ら

いる あ ゆ ひ が い す ら き す

あ ち くら き す や ま ら 手長 燧

八月。かい づ す ら き たい 物 太 鯉

あ ゆ 太 刀 魚 な ま ら さ よ り

せい ご あ ち こ ち た こ

九月。は せ ふ つ こ あ あ ご かい づ

太 刀 魚 い る ご た い あ ち す ら き

せい ご あ ゆ い る くら き す

以上



二二二二一一一一一一一一  
五三二一〇九八七六五四三二

〇八八七六六五五五四四四三三  
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
六六六五五五四五四四三三  
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

三三三二二二二二二二二二二二  
〇〇〇八八八五五五三三〇〇

一一一〇九八七六五四三  
一一〇九八七六五四三

二二二二二二二二二二二二二二  
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
三二二一一一一一一一一一  
〇四一八八八五二八

一一一一一一一一一一一一一一  
八五二〇〇〇〇八六一

〇釣糸の太さ比較表  
人造テグス  
テグス  
分厘毛

流糸  
本燃

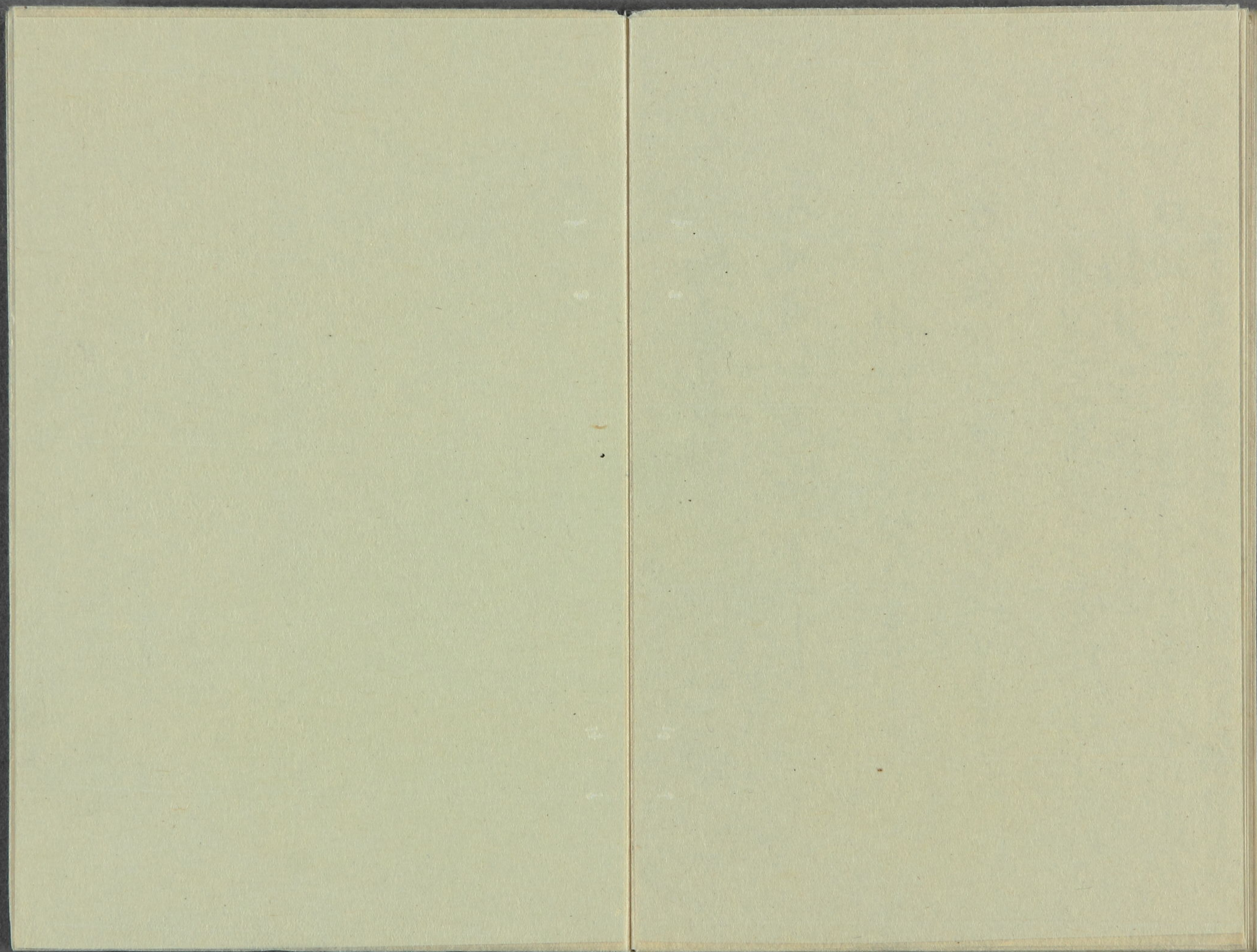
流引糸  
分厘



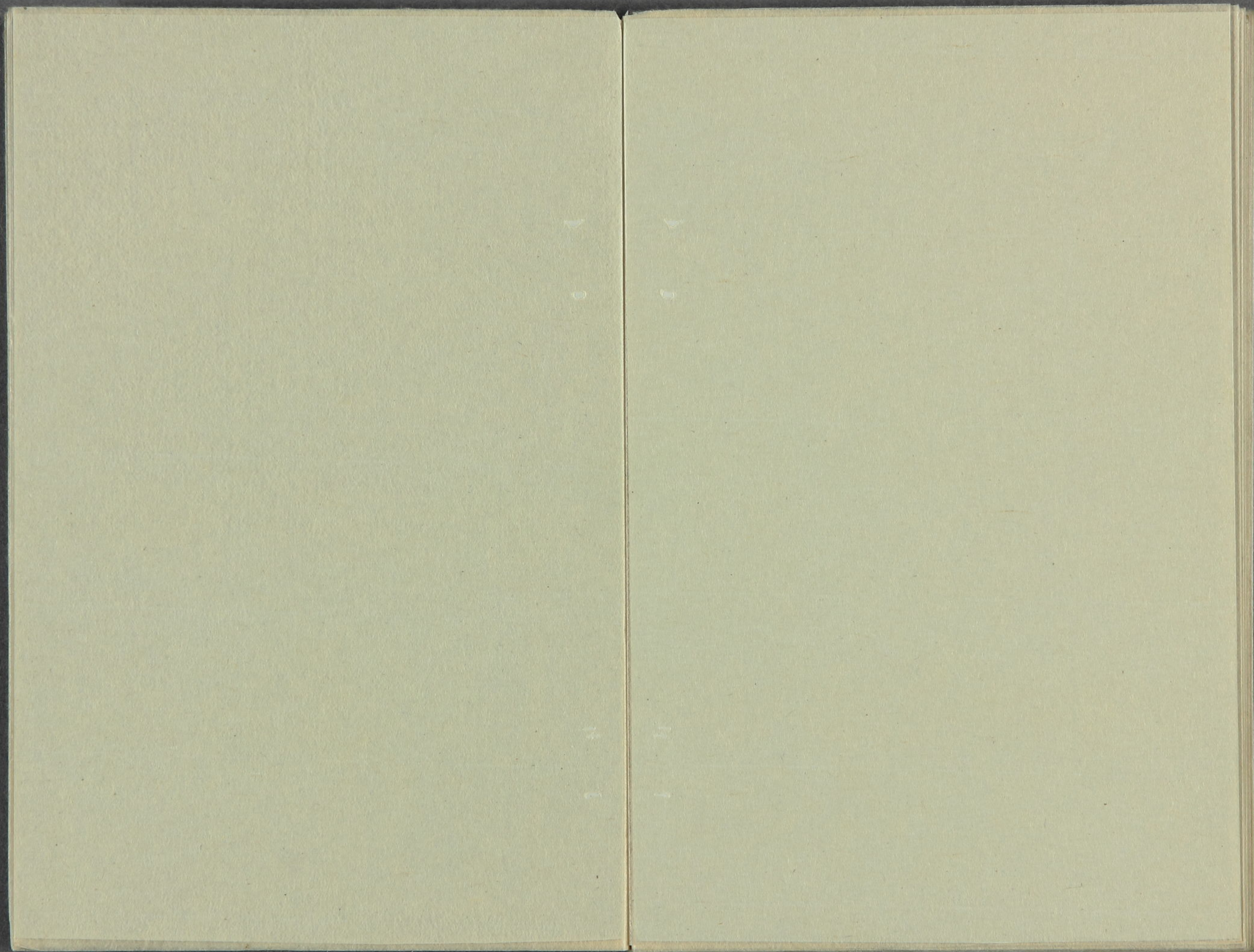
釣道要件

- 時間を超越すべし
- 深水は堅き竿善し
- 食けぬ魚は釣るべからず
- 釣道よ葦器を愛玩するも如  
釣具を愛玩せよ
- 釣上手で道具を揮うのみならず  
下手で道具を吟味する面白し

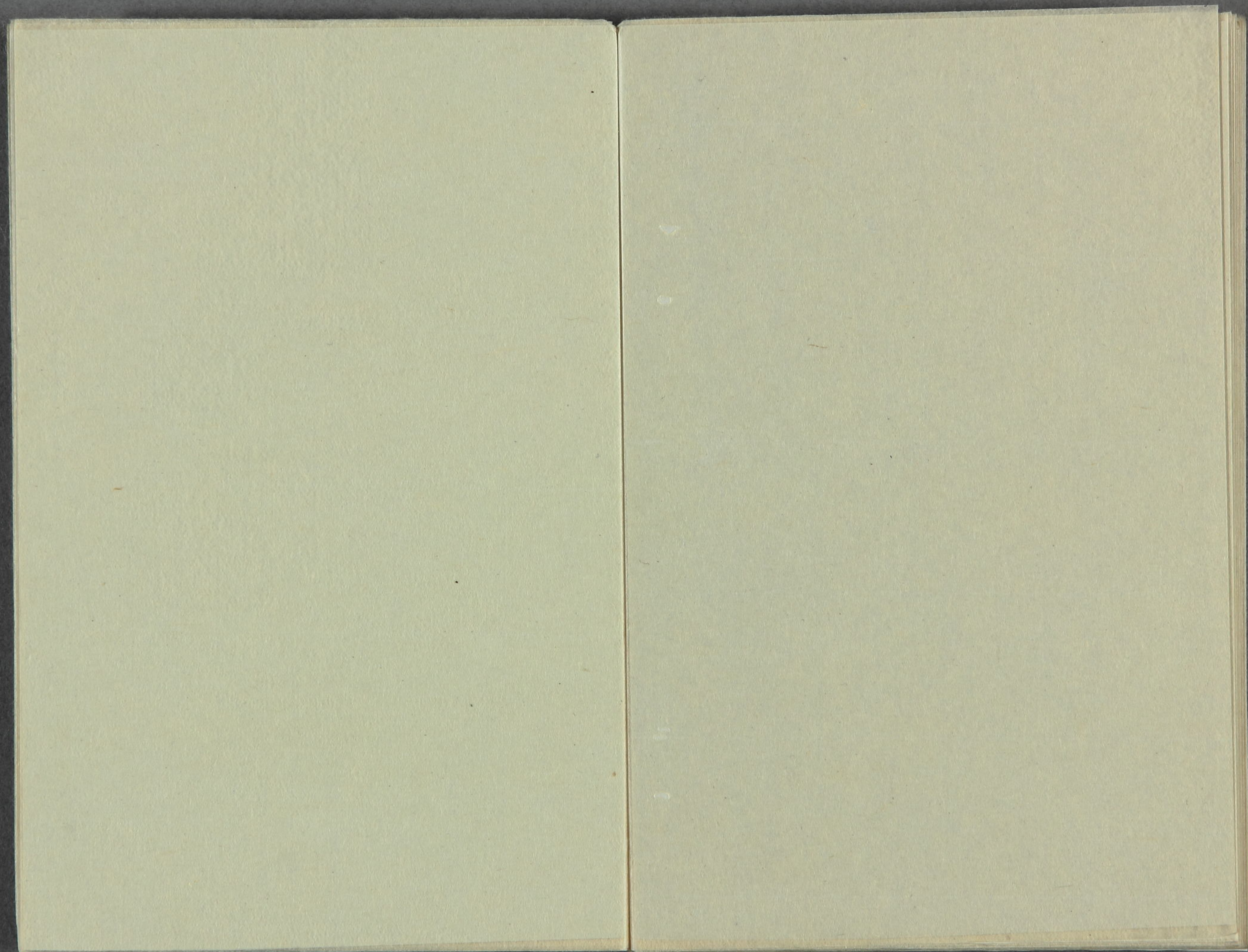




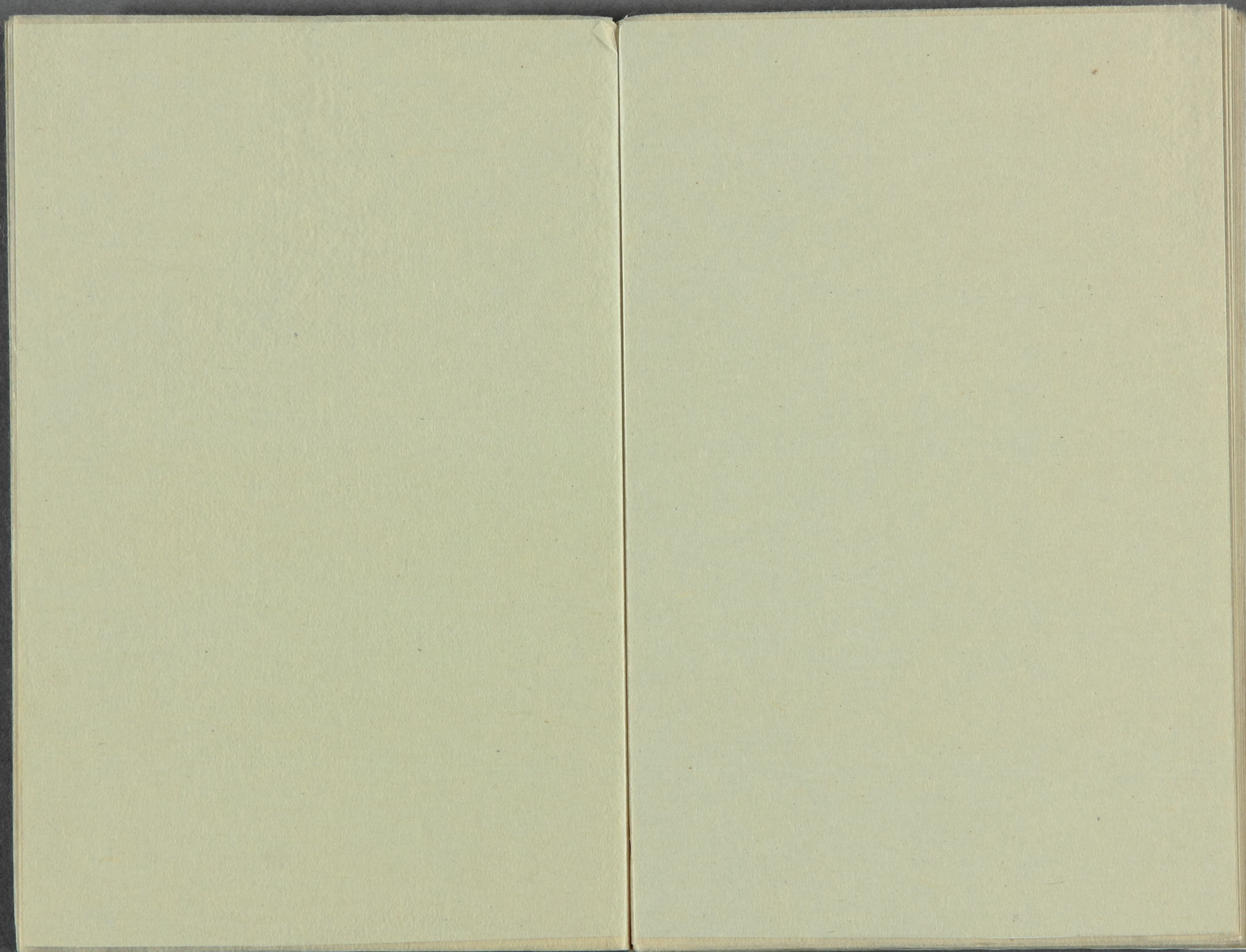




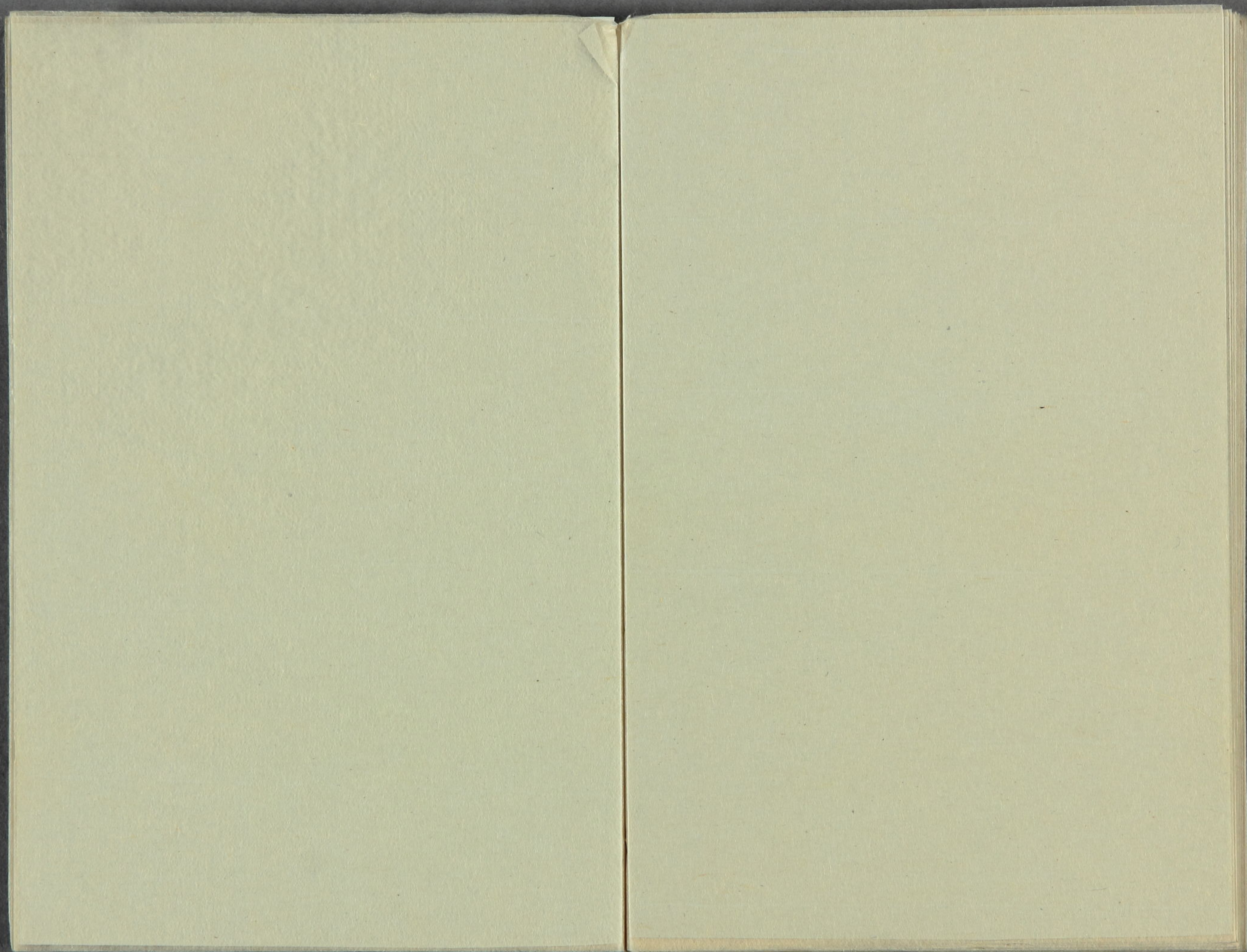




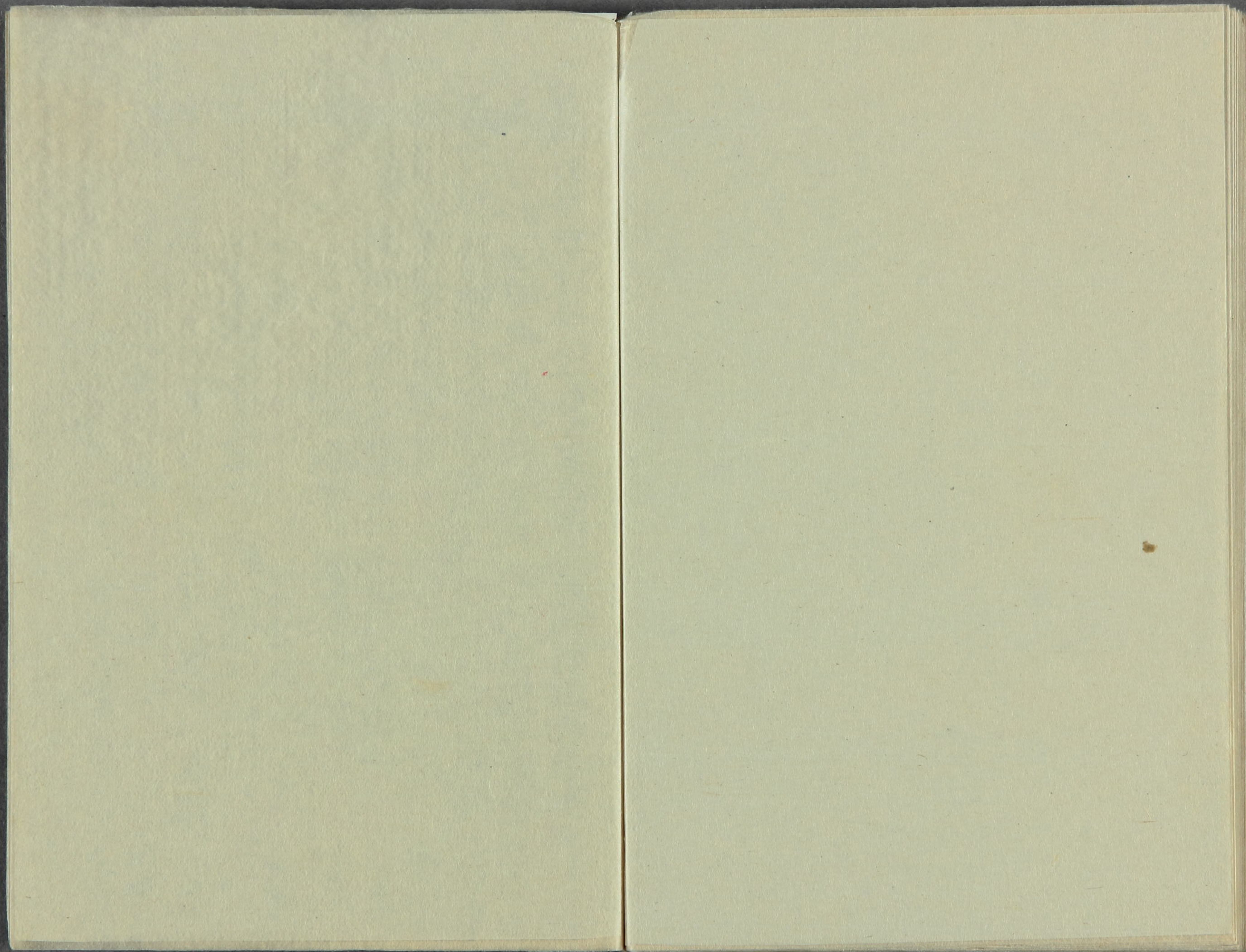
















所持竿記

名。鮫。四本継、一丈二尺五寸 **硬** 四〇〇

名。竿治製直、一丈寸 (内通四本継) 沙魚 **三** 應用 一七〇

名。庄内竹、四本継、九尺八寸五分 (本作種付九尺五寸) 應用 一七〇

名。鮫 **三** 應用 **硬** 丈一寸 共五本トナレ 三間 四〇〇

名。内通。内通三本継、七尺二寸 布袋竹 **二** 軟 二五〇

名。内通。内通四本継、一丈一尺二寸三分 (鮫 **三** 應用) 中間 二三五

名。内通。内通三本継、八尺七寸 **硬** 元本蒔キ三本継リ九尺付 **硬** 五〇〇

名。庄内竹。外通一丈一尺三寸 (落鮫 **三** 應用) **軟** 一五〇

名。手ばね。二本継外通 三尺五寸 (落鮫 **三** 應用) **軟** 一五〇

名。白製手ばね堅竹 三尺一寸。軟竹 四尺二寸

名。X 鮫。竿治製 七本継 三間 (海津 **三** 應用) 三〇〇

名。X 十本継 二間半 尺八納 (ハヤ・ヤマベ **三** 應用) 五〇〇

名。X 六本継 二間半 三尺納 (ハヤ・海津 **三** 應用) 杉段巻 二二〇

名。X 四本継 一丈一尺六寸 (たなご **三** 應用) 三軟九〇

名。庄内竿。一丈五寸 四本継 (たなご **三** 應用) 二五〇

名。庄内竿。一丈二尺五寸 本継 (たなご **三** 應用) 五〇〇

名。洋杖 九尺七寸 (たなご **三** 應用) 五〇〇

名。外通 **三** 製作 沙魚 **三** 宜 **中間**

名。たなご。八本継 七尺 (内通 **三** 製) **堅** 四〇〇

名。白製沙魚外通 延八竿 五尺一寸 **軟** 三五



釣諸道具

一竹魚籠。幅六寸五分、深四寸（沙魚）

一桶箱。幅七寸、深五寸（鮎・ヤスベ・たなご用）

一網びく。幅六寸五分、深二尺三寸、口幅三寸七分

一底魚定限。口幅四寸七分、深二尺四寸三分

一餌箱。たなご用 鮎用

一竿懸。海釣専用

一土中差込

一リール

一釣はづし。象牙製「からげづし」。

一仕懸巻。

一絲巻。



三得

